

フランス ゼミ海外研修

学生氏名	宮西 里穂さん、島田 彩里さん、塩平 莉子さん
所属学部	教育学部 児童教育学科 保育コース（大庭ゼミ）
参加学年	3年次
滞在期間	2025年3月3日～11日
滞在方法	ソルボンヌ大学教職大学院（INSPE） 宿舎



フランス研修を通して

乳児保育所や保育学校、小学校への見学、交流を通して、子どもたち一人ひとりに合わせたリズムで保育、教育を行い、子どもにとって「安心する」ことを第一に考えていることが印象に残った。また、施設の中が日本と比べて明るいように感じた。子どもたちの作品を飾っていたり、今までの授業で学んだ公式のようなものを掲示していたりと教室や廊下などの部分が明るく、より楽しそうに感じた。

午睡ではお気に入りの人形を持って寝ると知り、保育学校の中にも家族や家庭を感じることができるところが素敵だと感じた。乳児保育所を訪問して、実際に屋外で昼寝をする様子に驚いたが、フランスでは外の空気を吸う機会が少ない子もいる、外の方がぐっすり寝る傾向にあるという説明をきき、屋外昼寝の必要性やメリットを知った。保育所のデイリープログラムに子どもが合わせるのではなく、一人ひとりの睡眠リズムで午睡をすること、安心してぐっすり寝ることの大切さを学んだ。



また、フランスで平和の手遊びをすることで、日本で平和の手遊びをした時よりも、自分のまわりだけが平和であればいいのではなく世界が平和であってほしい、子ども達に平和を伝えていきたいという思う気持ちが強くなった。

研修の中では、保育学校の子どもたちやフランスの大学生と一緒に折り鶴を折る機会もあった。保育学校の子どもたちは大学生と違い、英語が十分に通じないため、どのように説明したら良いのか悩んだが、子どもたちから見て同じ向きに紙を置き、少しでも分かりやすいようにしたり、指でさして伝えたり、擬音を使って伝えたりと工夫しながら実践した。フランスでは折り紙を折る習慣がないため、細かい作業が必要な折り鶴に苦戦する様子が見られたが、折り方が分かったときや自分の力でうまく折れたとき、完成して広げたときの満足そうなキラキラした目がまぶしかった。



フランスでは大学と現場が協力して、私たちのような保育を学ぶ学生が保育学校で定期的な実践する機会があり、直後に行うカンファレンス（振り返り）で保育学校の先生と大学の先生、学生が意見を交換し、次の実践や学びに活かせるやり方が効果的と感じた。参加したカンファレンスでは、「時間が足りなかった」「適切な言葉を使うこと」「できた子への声かけが難しかった」などの反省があり、実習を経験した私たちにも共感できることが多く、フランスの学生も同じような悩みを抱くことが分かり、振り返りに参加することができて良かったと実感した。

内容の濃いフランス研修を通して、これまで知らなかった日本以外の保育、教育の実態を実際に目のあたりにした。違いに驚くと同時に、なぜ違うのだろうといった疑問が自分の中で生まれ、今後、追究していきたいと考える機会になった。

日本ではまだ当たり前と捉えられがちである「みんな一緒に、一斉に」という考え方は、フランスで見学した保育・教育機関では必ずしも当たり前ではなく、特に午睡の際は一斉に起こすのではなく個々にとって必要な睡眠がとれるようにしている点が印象に残った。日本ではデイリープログラムに則っているが、フランスでは個々のリズムに合わせて日々の生活を展開していることが分かった。



UNESCO で伺ったお話からは、教育改革において、国と国をつなげて良いところをどう取り入れるか考えるとともに、幼児教育において「守らなければならないスタンダード」の部分について考慮する必要性を考える機会となった。何を見直したり取り入れたりするのか、という変える部分だけでなく、子どもにとって変えてはいけない部分、現時点の幼児教育において上手く作用している部分についても考える必要がある。

今回のフランス研修を通して既存の価値観が大きく広がり、より多角的に物事を考え、自分自身の考え方や日本の現状を客観的に見るできるようになった。また幼児期・幼児教育は子どもの成長・発達において最も重視すべき点であることが改めて分かった。自分自身が目指している教育者・保育者という立場の重要性やその仕事の尊さを見つめ直すことができ、自分が現場でできること・考えるべきことは何かについて、これからの大学生生活・卒業後の進路でも考えて続けていきたい。



UNESCO本部見学 (3/6)

- ・第二次世界大戦後1946年ユネスコ設立、加盟国・地域194
- ・発達の連続性を重視しており、学びの基礎を築く幼児教育に力を入れている。(Chang教育政策局長)
- ・小学校教育を幼児におろすのではなく、移行がスムーズになるようにする、国同士の交流を通して、保障しなければならない教育のスタンダードを各国に浸透させていく必要がある。(Diawara幼児教育部門責任者)

「戦争は人間の心の中で生まれたものであるから、平和の砦を人間の心の中に築かなければならない」